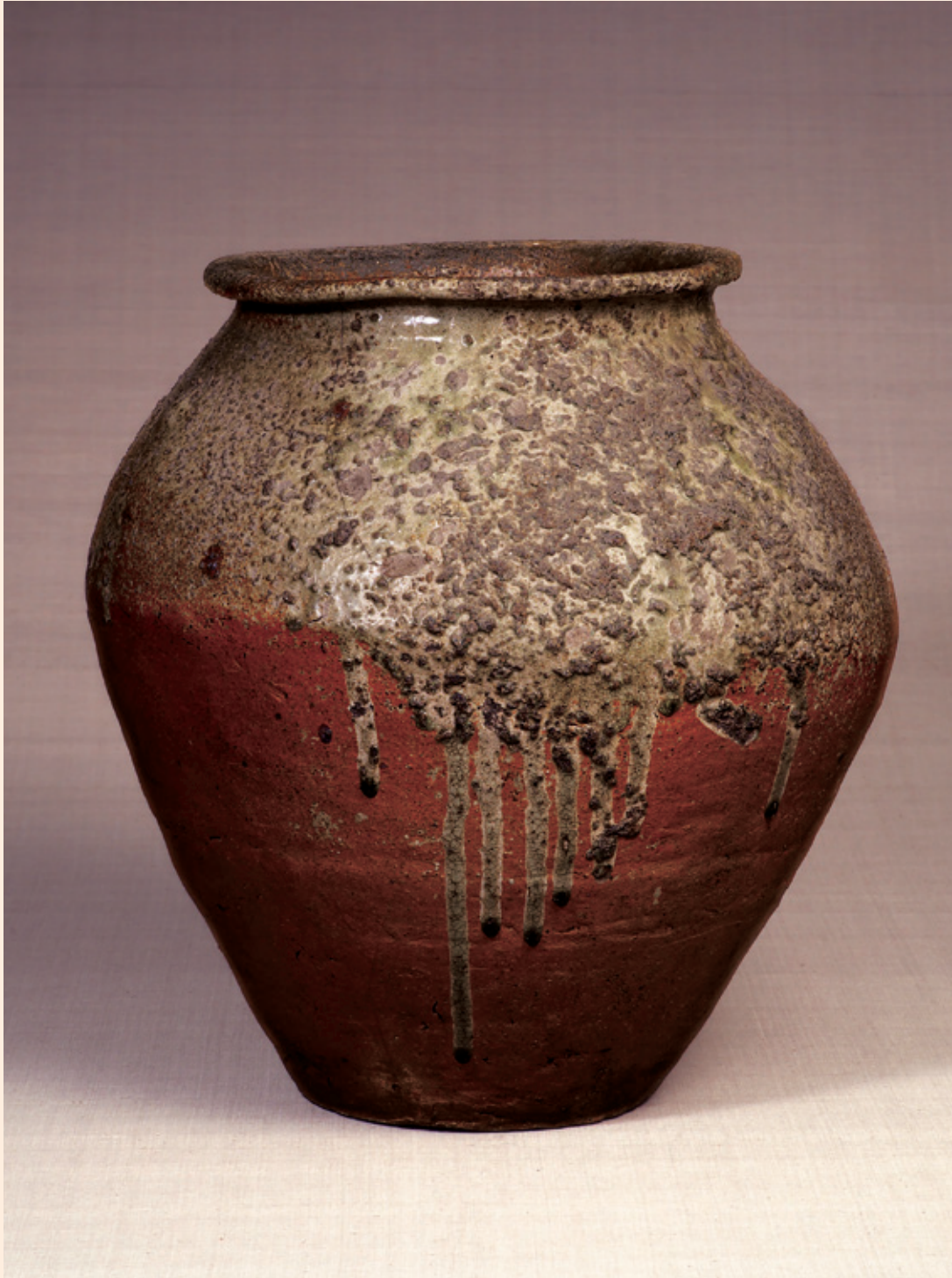


豊田市民芸館だより

第29号



丹波焼 自然釉薬 鎌倉時代 日本民藝館蔵 (関連記事5頁)

目次

- ・ 民芸の森の秋の予定 2 頁
- ・ 企画展「染型紙の技と美 -伝統文様から「かわいい」まで-」名古屋造形大学所蔵・石井コレクションを中心に開催報告 3 頁
- ・ 企画展「Folk Crafts -世界の手仕事 館蔵コレクションより-」 4 頁
- ・ 特別展「柳宗悦と古丹波」準備レポート 5 頁
- ・ 「木工芸 黒田辰秋が集めたもの-黒田家寄贈資料展-」を終えて 6 頁
- ・ 令和元年度事業報告 7 頁
- ・ 民芸館からのお知らせ 8 頁

民芸の森の秋の予定

森のアート展 あとあとのいま

—猿投窯エリアの作家たち

9月19日(土)～10月11日(日)

本多静雄が、その調査と周知に貢献した猿投窯(猿投山西南麓古窯跡群)。それは豊田市から瀬戸市に位置する猿投山の南西地域に広がる古代～中世の古窯跡で、現代の周辺に広がる窯業生産地の源流ともいえる存在でした。今回の企画は、そのエリアで現在活躍する屋我優人(瀬戸市)・望月美鶴(長久手市)・横田典子(豊田市)の3名の陶芸作家の作品を紹介します。



望月美鶴 作

森のアート展「紫乃～murasakino～ アクリル画展

—あなたも わたしも アーティスト—

10月24日(土)～12月6日(日)

豊田市出身の紫乃～murasakino～によるアクリル画作品の展示。山の中に自身で手作りした木の家に暮らしながら自然の中で感じた目に見えないものをアクリル絵の具を使い色に変換するような感覚でキャンバスだけではなく、無垢の板・布・照明器具などにも自由に描いています。今回は建物の中だけではなく、森の中にも展示し、ふらっと散歩に訪れる感覚でアートに触れてみるという志向になっています。



観月会 10月31日(土) 午後3時～6時30分

森の中にオリジナルの竹行灯を灯し、三味線・二胡などの舞台演奏・竹行灯・季節の俳句などを展示します。晩秋の夕暮れ、月の下での催しを楽しみませんか。カフェの出店もあります。荒天時は中止となります。

2020勤八峡紅葉ウォーキング～勤八峡の橋を巡る～

11月15日(日) 午前10時から午後1時まで 最終受付 午前11時30分 小雨決行

民芸の森を発着点として越戸ダムを渡って勤八峡を一回りする約4kmのコースを巡ります。今年のテーマは「橋」。勤八峡一帯に点在する様々な「橋」を巡るコースです。平戸橋1区・名鉄学園杜若高等学校・平戸橋いこいの広場・中部電力愛知水力センターなど、地域の皆さんの協力をいただいて実施する予定です。

参加費：無料

事前申込：不要

行程：民芸の森スタート⇒いこいの広場⇒民芸館⇒前田公園⇒水管橋⇒越戸ダム⇒山水湖碑⇒平戸大橋⇒胸形神社⇒民芸の森(約4km 所要時間約1時間半)

民芸の森倶楽部がNPO法人になりました。

本年1月愛知県によるNPO法人認可(31社活第2188号)、2月17日法人登記完了(法務局)。

平成25年に豊田市が市民公募した民芸の森の利活用に関するワークショップをきっかけに、平成27年7月に市民からなる任意団体「民芸の森倶楽部」が設立され、平成28年4月以降、「森の手ざわり」「観月会」の開催、市民ガイドの実施などの活動を豊田市民芸の森で行ってきました。これらの活動をより一層充実させていくとともに、周辺地域に貢献する団体として組織を強化するべく、任意団体から移行して非営利活動法人となりました。

令和2年3月17日（火）にオープンした企画展「染型紙の技と美 - 伝統文様から「かわいい」まで - 名古屋造形大学所蔵・石井コレクションを中心に」は新型コロナウイルス感染症の影響で、4月11日（土）から5月18日（月）まで臨時休館することとなりました。3月28日（土）の「伊勢型紙彫刻実演」以外のすべての関連イベントを中止せざるを得ず、断腸の思いでした。5月19日（火）に再開し、関係者の皆さまのご協力により6月14日（日）まで会期を延長することができました。当初予定していた61日の会期日数から15日分減りましたが、2,495人の方にご覧いただくことができました。

臨時休館中、静かな展示室をゆっくり見て回ると、染型紙としての役目を一旦終えたはずの型紙たちが生き生きと語りかけてくるようでした。中でも私が特に気に入ったものは麦穂をデザイン化した1枚です。（写真右）麦穂を単純化した模様がおしゃれで、この型紙で染めた布でワンピースやバッグを作ったら素敵だろうなと想像しながら楽しむことができました。



染型紙展会場の様子（第2民芸館）



麦穂横断縮（部分）突彫り（石井コレクション）



名古屋造形大学学生型紙ポスター展の様子（第3民芸館）



3月28日（土）に伊勢型紙彫刻実演をされた伊勢型紙彫師の那須恵子氏

もない達成感が待っている。高い山（難しい柄）を見ればどうやって攻略するのか考えるのが楽しくなる。そして、上（親方）を見ればはるか遠く、どこまでも向上心を持ち続けられる。」とのお答え。また、数多くの職人技の結晶のような染め物（着物）作りの一部を担える喜びや、人を感動させる並外れた手わざ、模様の面白さも型紙の魅力だとのこと。「どうせやるなら人を感動させる技術（一流）を目指す」と語る那須さん。那須さんのような若い職人が技術を継承し、美術を学ぶ学生が型紙のデザインから学び、民芸館という博物館施設がその魅力を発信する。このような取り組みを今後も継続して実施していけたらと思います。最後に、このような企画展の提案・展示協力をしてくださった名古屋造形同窓会を始め関係各位に改めて心より感謝申し上げます。（内田美穂子）

今回の企画展では、名古屋造形大学の学生さんも石井コレクションに触れ、そこから発想を得た作品を制作しました。水彩、色鉛筆、パソコンなど様々な手法で個性豊かな作品が出来上がり、9月30日（水）まで第3民芸館で展示をすることができました。日本の型紙はヨーロッパでも美術館や美術学校に所蔵されデザインや造形の参考にされているようですが、日本でもそのような活用の可能性があると感じました。

そして、伊勢型紙の産地、三重県鈴鹿市にも多大なご協力をいただきました。鈴鹿市では、伊勢型紙の技術を保存・継承する活動と現代の産業に活かしていく活動の両方を行っています。伊勢形紙協同組合よりお借りした照明器具は光を通すことで型紙そのものの美しさを暮らしの中で楽しむことができるものだと感じました。

また、関連企画「伊勢型紙彫刻実演」において、伊勢型紙に魅せられ、伊勢型紙彫師として職人の道に進まれた那須恵子さんに「ご自身にとっての伊勢型紙は？」とお聞きしたところ、「山です。難しいけれどやり遂げたらとてつ

企画展「Folk Crafts -世界の手仕事 館蔵コレクションより-」

10月18日（日）まで開催



壁面に西アフリカ・ベナンの動物のアップリケと南米・ペルーの毛織物を展示。(第2民芸館)

企画展「Folk Crafts -世界の手仕事 館蔵コレクションより-」は6月2日（火）から第1民芸館、6月20日（土）から第2民芸館がオープンしました。



人形 ロシア

第1民芸館ではアジア地域の染織品や木工品、第2民芸館ではアフリカ、中南米地域の染織品と人形などの玩具を展示しています。今回の展示品はすべて当館のコレクションで36ヶ国、約220点を展示しています。

第2民芸館を入った正面の天井からはナイジェリアの貫頭衣（写真左上）を展示しています。10cm程の細幅で織られた布をつなぎ合わせて作られており、中央には見事な刺繍が施されています。これはハウサ族の男性が身に着ける衣裳で、イスラム教の教義に沿った伝統的な図柄を男性が刺繍します。渦のような模様は太鼓を、その隣の細長い2本の三角はナイフを表しているそうです。



西ジャワ州・スンダ族のジャイボンダンス(7月26日(日)インドネシアデーの様子)

のインドネシア語以外に500もの言語があり多種多様な文化が生み出されていることが展示品から感じていただけたと思います。

また、8月30日（日）には「カード織体験」講座を開催しました。カード織はタブレット織とも言われ、経糸をカードの穴に通し、カードを回転させることで経糸を上下させ、緯糸が通るひぐちのすいどをつくり織るという仕組みになっています。その歴史は古く、紀元前4世紀頃の織物にも見られると言われていいます。今回の講座では、約9cm四方の紙カード12枚を使用し、約2cmの織幅の織物を制作する体験をしていただきました。カードを回転させる方向を変えることで模様も変わり、同じ模様でも糸の色によって雰囲気の違う作品に仕上がりました。参加者の皆さんは楽しんで制作していました。



カード織体験で出来上がった作品 8月30日(日)

現在もコロナウイルス感染症の影響で、気軽に海外への往来ができない状況が続いています。今回の企画展を通して身近なところで世界の手仕事に触れていただき、その多様性や日本との類似性を感じていただけたらと思います。

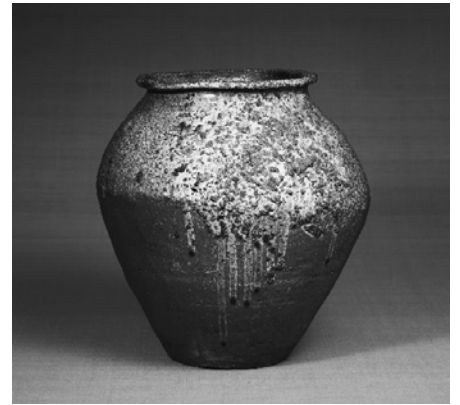
(内田美穂子)

特別展「柳宗悦と古丹波」準備レポート

柳宗悦と古丹波

今回の特別展「柳宗悦と古丹波」は、当初の展示計画では2019年9月から11月に日本民藝館で開催されたものを再構成して日本民藝館所蔵と兵庫県の丹波古陶館所蔵の作品を合わせて9月～12月の会期で特別展を開催する予定でしたが、コロナ禍による影響を最小限にするため、展示する作品構成と展覧会の会期の見直しをすることになりました。

そのため日本民藝館所蔵の作品で再構成し、それに加えて館蔵の丹波焼の古陶を展示する予定で、準備を進めています。



丹波焼 自然釉甕 鎌倉時代 日本民藝館所蔵
(写真提供:日本民藝館)



1953年 丹波立杭を訪問した柳宗悦ら
(写真提供:日本民藝館)

柳宗悦の丹波焼との出会いと作品蒐集

柳宗悦は1923年の関東大震災の後、東京から京都に居を移します。京都では、柳は丹波で織られた布を朝市でよく購入していたことがあり、その時に丹波焼との出会いもあったと言われています。1927年には丹波立杭窯を訪問し、流釉の製品を買い求めるなど丹波焼に魅かれていきます。その後、丹波篠山の尚古堂^{しょうこどう}や大阪の百貨店が催した展覧会などを通して丹波焼の古陶への関心をさらに深めていきました。特に尚古堂の中西幸一氏との出会いは、柳にとって丹波焼の蒐集に大きな影響を与えています。そして晩年に至るまで数多くの丹波焼を蒐集し、特に晩年は焼成時の灰によって作られた自然釉の甕に魅せられていきました。

展示の概要

今回の展示では柳が丹波焼と出会い、その魅力に魅せられ、多くの作品を蒐集し、特に自然釉の甕の自然な美にとらわれていくという経過をたどります。そして晩年に至るまで蒐集を続けたそれら丹波焼の古陶約100点を楽しんでいただくとともに、合わせて豊田市民芸館所蔵の丹波焼の古陶も観ていただきたいと思います。

(杉浦 裕幸)



丹波焼 赤土部釉黒流魚文甕 江戸時代 日本民藝館所蔵
(写真提供:日本民藝館)

特別展「柳宗悦と古丹波」

会 期：令和2年11月7日（土）～令和3年2月28日（日）

休 館 日：月曜日（祝日を除く）、12月28日（月）～1月4日（月）

会 場：豊田市民芸館（第1、第2民芸館）

観 覧 料：一般300円、大高生200円 中学生以下と70歳以上、豊田市内在住・在学の高校生、障がい者は無料（要証明書）

出品協力：日本民藝館

「木工芸 黒田辰秋が集めたもの—黒田家寄贈資料展—」を終えて

令和2年3月17日[火]～5月24日[日]（途中、臨時休館あり）で、「木工芸 黒田辰秋が集めたもの—黒田家寄贈資料展—」を開催しました。

人間国宝の木工芸・黒田辰秋（1904-1982）が集めた民芸資料など約400点の中から漆器、編組品、やきものなど約100点と、豊田市美術館が所蔵する黒田作品5点、映画監督の黒澤明氏旧蔵の拭漆楯家具セット（1964年）や蔦金輪寺茶器なども展示しました。



展示写真(第1民芸館)

豊田市民芸館への黒田家からの寄贈は、旧黒田辰秋邸が取り壊されるのに際し、平成25年3月に黒田氏が収集した多数の民芸資料や工房の資料などから選別し、ご親族からご寄贈いただいたものです。



在りし日の黒田辰秋邸(京都市伏見区)
岐阜県下呂市にあった古民家を移築
撮影:石川祐一氏(『民芸運動と建築』淡交社より)

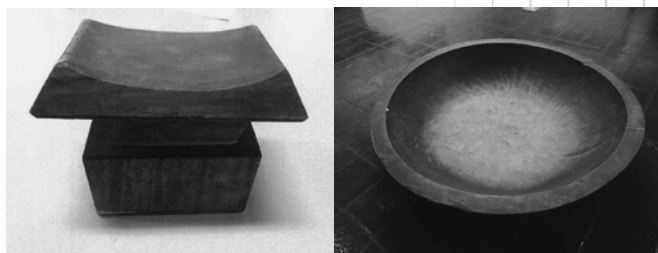
黒田辰秋は、京都市に生まれ、刳物、指物などの木工、乾漆、螺鈿などの漆芸で幅広く知られています。分業制に疑問を抱き、作家として一貫制作を志し、柳宗悦らの民藝運動に加わり、一時「上加茂民藝協團」を組織しています。1970年、重要無形文化財「木工芸」保持者（人間国宝）に認定されました。

今回、展覧会を終えて、新たに分かったことなどを紹介します。

寄贈資料の内、黒田邸1階の工房には、参考品として置いてあったと思われる、朱塗椀類のほか、沖縄県

糸満の船枕がありました。

柳宗悦の著書『手仕事の日本』でも紹介されています。船枕について調べてみると、「沖縄の言葉で、フゾー（たばこ入れ）。センダンの木で作った水密性の高い入れ物、中に刻みたばこやマッチを入れた。魚を売ったお金を中に入れて枕にすれば、金庫代わりにもなる。」という記事を見つけました。



船枕 沖縄県 糸満

大こね鉢 産地不詳

黒田辰秋が集めたものは、黒田邸2階の一室にあり、麦わら手茶碗（瀬戸焼）などの焼き物を始め、竹籠などの編組品、そして数が多かったのが木工品類です。中でも、私がこれまで見たこともない、大こね鉢（径80cm）の大きさでした。寄贈品の選品をした時、これよりもさらに大きなこね鉢もあったのですが、運搬や展示のことを考えると、大きすぎると断念しました。布では、1点のみですが、台湾の貝殻ビーズ衣装の一部がありました。黒田辰秋は台湾のビーズ衣装を気に入っており、京都の清水に住んでいた頃、部屋に飾ってある写真が残されています。

このほか寄贈資料には、制作道具や写真、書簡類があり、皇居新宮殿の椅子の制作を依頼された時の椅子の図面、芸術家からの手紙、作品づくりをしている写真がありました。

染織家の志村ふくみ氏との交流を示すものもあります。今回展示した「蔦金輪寺茶器」（豊田市美術館蔵）の茶器を入れる布袋の仕覆が志村ふくみ氏のもので、茶器の箱の側面に墨書「裂」、印「ふくみ」とあります。

金輪寺茶器の材料、蔦のことを黒田家の方からうかがいました。蔦は蔓なので茶器にするよう木は近くではなく、何年も探して苦労してやっと九州地方で見つけたそうです。なお、工房から収集したものに蔦と思われる原木があります。

現在、調べていることがあります。それは、黒田辰秋が1964年、京都国立博物館で特別陳列「日本の木器」の企画に参加し、「日本の木工美」と題して講演を行っていることです。この詳細はよく分かっていませんが、黒田辰秋が収集した木器も出品していたようです。調べていく中で黒田辰秋の作家以外の一面がわかるのではないかと考えています。今後調査を進め、ご報告したいと思います。（児玉 文彦）

令和元年度事業報告

民芸館年間入館者数

26,334人(315日開館) (平成30年度 27,746人(314日開館))

特別展・企画展

特別展1回、企画展3回開催しました。
各展覧会では、講演会や講座、ギャラリートークなどを開催しました。

◎企画展「愛蔵こけし」

会 期 12月22日～5月12日
入 館 者 3,639人(元年度分38日間)
関連企画 ギャラリートーク、
座談会、こけし絵付け体験



◎企画展

「四季の民芸 夏一歳時記より」
会 期 5月21日～9月1日
入 館 者 2,114人
関連企画 ギャラリートーク、
染め物体験



◎特別展 (日本民藝館巡回展)

「柚木沙弥郎の染色 もようと色彩」
会 期 9月10日～12月1日
入 館 者 4,953人
関連企画 記念講演会「柚木沙弥郎
の民藝と創造」(講師:松井健氏
(東京大学名誉教授)、ギャラリ
ートーク、民芸探訪バスツアー(長野
県松本市)、柚木氏関連書籍等販売



◎企画展

「本多静雄コレクションⅥ
—現代陶芸 瀬戸・常滑を中心に—」
会 期 12月10日～3月8日
入 館 者 1,586人
関連企画 記念講演会「本多静雄と
現代陶芸—伝統と創造—」(講師:
加藤清之氏)、ギャラリートーク



◎企画展

「染型紙の技と美—伝統文様から
「かわいい」まで—名古屋造形大学
所蔵・石井コレクションを中心に」
会 期 3月17日～6月14日
入 館 者 896人(3月末現在13日間)
関連企画 伊勢型紙彫刻実演
(講師:那須恵子氏)



民芸館講座開催

定例の講座と団体利用による講座を行いました。

【講座参加者数】	[連続講座]
穴窯陶芸講座	参加者数 159人
ガス窯陶芸講座	参加者数 131人
染織講座	参加者数 61人
絞り染め講座	参加者数 89人
拳母木綿講座	参加者数 61人
トンボ玉講座	参加者数 146人

[体験(親子・成人)425人]
ガス窯12回 穴窯陶芸3回 トンボ玉6回
絞り染め7回 裂織4回 糸紡ぎ等体験4回

【団体 利用件数・参加者数】
穴窯陶芸1件 ガス窯陶芸7件 絞り染め6件
合計270人

【民芸体験・参加者数】
そば猪口絵付け体験、しめ縄作りほか
45回・423人

イベント

【平戸橋桜まつり】
4月6日(土)開催5,500人

【民俗芸能祭】
4月6日(土)開催(平戸橋桜まつりと同日開催)
八草八柱太鼓保存会始め3団体 来場者210人
(民芸の森で実施)

刊行物

「民芸館だより」第27号・第28号

資料収集

日本民藝館展作品(青紙波文文化包丁など)をはじめ
9件13点の購入。和紙、こけし、やきものなど21件
114点の寄贈。平成31年3月末で収蔵資料数は12,072
件53,626点となりました。

資料・写真貸出

資料貸出2件(豊田市郷土資料館へ)

友の会

会員数83人(3月末現在)
友の会通信発行4回(105～108号)
講座優先枠利用者(穴窯陶芸講座)37人
研修旅行 11月 長野県松本市 25人
*特別展関連企画と共催

民芸の森

年間入館者数 16,978人
イベント/平戸橋桜まつり(4/6)、初夏 森の手ざわり(5/26)、秋の勘八峡紅葉ウォーキング(11/17)
ボランティアガイド/毎週第1・3土曜日80人、団体見
学146人 体験ワークショップ/鯉のぼりの吊るし飾り
始め13回 森のアート展/「漆と玉」ほか3回 施設
整備事業/屋外トイレ整備ほか

民芸館からのお知らせ

① 展覧会内容・会期の変更

新型コロナウイルス感染症による影響の為、展覧会を調整しました。今後の状況によっては再検討の可能性もありますが、現段階での展覧会は下記の通りです。

企画・特別展

第一・第二民芸館 ※特別展は有料

- ～令和2年10月18日(日) 企画展「Folk Crafts -世界の手仕事 館蔵コレクションより-」
- 11月7日(土)～令和3年2月28日(日) 特別展「柳宗悦と古丹波」(日本民藝館巡回展)
- 3月9日(火)～ 企画展「植物文様の民芸」

民芸館ギャラリー

第三民芸館 ※いずれも無料

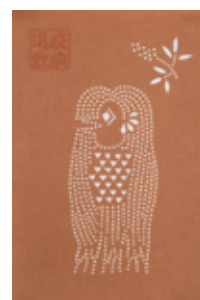
- ～令和2年9月30日(水) 名古屋造形大学学生型紙ポスター「日本の美」展
- 10月10日(土)～11月29日(日) 館蔵コレクション展
- 12月5日(土)～令和3年1月17日(日) 郷土玩具展 干支と丑
- 1月23日(土)～3月7日(日) 第7回伝承拳母木綿展
- 3月23日(火)～ 令和2年度民芸館講座作品展

② 新収集資料 アマビエ文伊勢型紙

6月14日(日)まで開催していた企画展「染型紙の技と美」でお世話になった伊勢形紙協同組合(三重県鈴鹿市)より、アマビエ文の伊勢型紙が寄贈されました。新型コロナウイルスの流行とともに注目されるようになったアマビエは、豊作と疫病の流行について予言し、その姿を描いた絵を人々に見せよと助言したとされています。寄贈していただいた型紙には、可愛らしいアマビエと南天(「難を転じる」とする縁起の良い植物)が彫られています。



『肥後国海中の怪(アマビエの図)』(京都大学附属図書館所蔵)



アマビエ文伊勢型紙
縦15×横10cm

③ 刊行物・グッズのご案内

・委託図録『染型紙の技と美 -伝統文様から「かわいい」まで-
名古屋造形大学所蔵・石井コレクションを中心に』

名古屋造形同窓会発行 1,000円 A4版 80頁

令和2年6月14日(日)まで開催した展覧会の図録を委託販売しています。

・委託販売グッズ

絞り染めエコバッグ

縦43×横40×マチ6cm
1,000円



拳母木綿古富久紗

縦16×横16.5×厚さ0.5cm
2,000円



拳母木綿ブローチ

円形:直径4.5×厚さ1cm
1,500円



『染型紙の技と美』図録

お問い合わせ 豊田市民芸館(豊田市 生涯活躍部 文化財課)

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町波岩86-100

TEL 0565-45-4039 FAX 0565-46-2588

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)

開館時間 午前9時～午後5時

入館料 無料(特別展は有料)

<http://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/>

豊田市民芸の森

〒470-0331

豊田市平戸橋町石平60-1

TEL 0565-46-0001

